

課題の解決に向け、仲間とともに主体的・対話的に深く学ぶ児童（知育）

自分の大切さとともに相手を大切に思う豊かな心を持った児童（徳育）

自ら心身の健康保持増進に努める資質・能力を持った児童（体育）

○児童、保護者、教職員の評価は「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」という肯定的な回答の合計を%で示しています。色が付いているのは5%以上の上昇または下降となった評価です。 ○伊倉っ子プロジェクト委員（学校運営協議会委員）の評価は4段階の平均です。

領域	No.	児童への質問	評価	保護者への質問	評価	教職員への質問	評価	教職員の考察・対策	伊倉っ子プロジェクト委員（学校運営協議会委員）のコメント	評価
確かな学力（知育）	1	わたしは、授業中「ゲー、ペタ、ピン」ができています。	前期 75 後期 72	お子さんは、家庭学習の際、「ゲー、ペタ、ピン」ができていますか。	前期 49 後期 50	児童は、授業中「ゲー、ペタ、ピン」ができていますか。	前期 64 後期 50	①No.1のゲーベタピンに関しては、繰り返し指導している項目ではあるが、改善が見られない傾向にある。他校の効果的な実践があれば学びたい。また、3月は「学びの姿勢のまとめの月」として管理職も授業中の様子を巡回し、ほめて伸ばす機会に設定できないかと考える。 ②No.4で保護者の評価は向上したが、児童、教職員の評価は低下している。児童会図書委員会の活動を家庭にも広げていきたい。 ③No.4で、児童と教職員の評価が低下している。週に1回程度全員で借る日を設定している学年もある。今後も呼びかけを行うとともに、朝の時間の使い方も検討が必要と考える。朝読書の時間を設定し、静かに本に親しむ習慣も育成する必要がある。	①No.1について、長時間の持続は身体的につらいものがあると思う。前より良くなったという評価をした方が児童の精神的な向上につながると思う。 ②No.2.3について、全国学力テストでも秀でている学年が多く見られており、成果が上がっているのではと思う。 ③No.4について、読書は想像力を養う。広い世界と同時に地域や郷土の自然、文化、歴史も学べる。その良さを実感してもらいたい。	3.3
	2	わたしは、めあてをもって進んで授業に参加している。	前期 85 後期 92	お子さんは、宿題や学習用具を忘れずに登校していますか。	前期 93 後期 92	学校は授業や学校行事の中で児童が主体となる場面を設けていますか。	前期 100 後期 100			
	3	わたしは、自分で計画して家庭学習に取り組んでいる。	前期 79 後期 82	お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いていますか。	前期 80 後期 82	学校は児童に対して家庭学習の仕方について具体的に指導していますか。	前期 100 後期 100			
	4	わたしは、月に10冊（低学年）、5冊（中学年）、1冊（高学年）以上の本を読んでいる。	前期 85 後期 79	お子さんは、月に10冊（低学年）、5冊（中学年）、1冊（高学年）以上の本を読んでいますか。（兄弟姉妹がいる場合、長子のお子さんで判断してください。）	前期 45 後期 62	学校は児童に読書の楽しさと有用感を実感させるような取組を行っていますか。	前期 100 後期 92			
豊かな心（徳育）	5	わたしは、無言掃除を時間いっぱいしようけんめいしている。	前期 95 後期 97	学校は、花壇や掲示物などの教育環境を整えていますか。	前期 96 後期 100	学校は、花壇や掲示物などの教育環境を整えていますか。	前期 73 後期 92	①いずれの項目も9割を上回っている。今後も豊かな心の育成に向け、計画的・継続的に指導を行っていく。 ②No.5の教育環境に関する教職員の前期評価73は、夏場の草取りが追いついていないことが考えられる。子供たちでは草が取りにくい土でもあり、今後花壇を縮小化したり草取りボランティアをお願いしたりするなどの必要がある。 ③No.6のいじめや差別の未然防止に関連しては、心のアンケートの経年比較でも「学校は楽しい」が年々上昇している。	①No.5について、P数は減っているため保護者から地域や区長会にボランティアをお願いする。 ②No.6に関して保護者との相談においてもいじめについて直接の見聞きはないという意見が多い。 ③No.6.7.8とも大人の評価が高いということは、徳育を児童が理解して頑張っていると考えられる。	3.7
	6	わたしは、いじめや差別をせず、人にやさしくしている。	前期 94 後期 95	お子さんは、いじめをしないなど他の人のへの思いやりの心が育っていますか。	前期 99 後期 96	学校は、いじめの未然防止や早期発見及び適切な対応に努めていますか。	前期 100 後期 100			
	7	わたしは、学級や学校が楽しい。	前期 94 後期 95	お子さんは、学級や学校が楽しいと思っていますか。	前期 94 後期 94	児童は、学級や学校が楽しいと思っていますか。	前期 100 後期 100			
	8	わたしは、登下校のときなど地域の人にもあいさつをしている。	前期 98 後期 98	お子さんは、登下校のときなど地域の人にもあいさつをしていますか。	前期 92 後期 96					
健やかな体（体育）	9	わたしは、早寝、早起き、朝ご飯など、規則正しい生活ができています。	前期 85 後期 92	お子さんは、早寝、早起き、朝ごはんなど、規則正しい生活ができていますか。	前期 85 後期 86	学校は、早寝、早起き、朝ご飯など、規則正しい生活ができるよう保護者への協力を働き掛けていますか。	前期 100 後期 100	①No.10は児童、保護者、教職員の認識が三者三様となっている。メディアコントロールについて三者が共に学び合う機会を設けたい。 ②No.11で教職員の認識に低下が見られるが、児童・教職員とも高い水準で意識できていることがわかる。地区児童会などを活用し、安全な登下校を引き続き指導していきたい。 ③No.12で児童と教職員の認識に差がある。学級での指導に加え、児童会生活委員会からの主体的な働きかけで自覚を高めさせたい。	①No.9について、保護者にも学んでほしい。 ②No.10について、スマホ等、SNSの使用について問題あり。歩きながら、自転車乗車中のスマホ使用も見かける。また、保護者の評価が低く児童とズレがあり、今後の課題と言えよう。 ③No.11について、登下校のあいさつが良くなっている。登校中上級生が下級生に注意する場面もあり頼もしく思う。	2.7
	10	わたしは、テレビやゲーム、スマホなど、メディアの時間を決めて使っている。	前期 71 後期 78	お子さんは、テレビやゲーム、スマホなど、メディアの時間を決めて使っていますか。	前期 50 後期 54	学校は、テレビやゲーム、スマホなど、メディアの時間を決めて使えるよう保護者への協力を働き掛けていますか。	前期 91 後期 92			
	11	わたしは、歩いて安全に登下校できている。	前期 97 後期 99	お子さんは、歩いて安全に登下校できていますか。	前期 93 後期 92	学校は、児童が自ら危険予測能力を持って安全に登下校できるよう指導していますか。	前期 100 後期 92			
	12	わたしは、学校のろうかを走らず、右側を歩いている。	前期 77 後期 82			児童は、学校の廊下を走らず、右側を歩いていますか。	前期 73 後期 67			
地域とともにある学校	13			学校は、教育活動の様子を保護者や地域に発信していますか。	前期 94 後期 92	学校は、教育活動の様子を保護者や地域に発信していますか。	前期 100 後期 100	①No.13は保護者、教職員ともに高い数値である。ホームページの更新を意識的に行い、ホームページを見ている保護者も増え、学校への関心が高まっている。今後も継続していきたい。 ②No.15は保護者、教職員ともに前期より低くなった。コロナの影響で地域人材を十分に活用できなかったためと考えられる。今後、状況も変化していくので年間を見通して計画を見直し、積極的に活用していきたい。 ③No.16は、保護者、教職員ともに高くなった。コロナ渦においても丸付けや読み聞かせ、家庭科実習などのボランティアを活用したことで教職員の負担軽減につながったためと考える。今後も継続していきたい。	①No.15について、学校のニーズを地域がどう受け止めるか。学校の要望だけに終わっていないか。一方通行にならないよう学校も地域のイベントに参加できるように。 ②No.15について、地域の方の得意なことを尋ね、活用を図る（絵、習字、裁縫、お茶、生花等）。 ③No.16について、登下校の見守りを自発的に参加したいという地域の声も増えた。学校と地域の距離が近くなっているように思う。	3.0
	14			学校は人権教育や特別支援教育などについて保護者や地域に情報提供していますか。	前期 86 後期 90	学校は人権教育や特別支援教育などについて保護者や地域に情報提供していますか。	前期 82 後期 92			
	15			学校は多様な地域人材や教育資源を活用して教育活動を進めていますか。	前期 88 後期 86	学校は多様な地域人材や教育資源を活用して教育活動を進めていますか。	前期 91 後期 83			
	16			学校は働き方改革を進めるために地域人材の活用などに取り組んでいますか。	前期 80 後期 84	学校は働き方改革を進めるために地域人材の活用などに取り組んでいますか。	前期 55 後期 75			